

令和5年度 授業改善推進プラン 第6学年

小平市立小平第三小学校

各教科及び 道徳	学力調査等の結果分析 児童の学習状況	指導上の課題	改善の計画	プランの評価方法
国語	・ 叙述をもとに、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。 ・ 自分の意見をもって交流したり、考えを自分なりにまとめたりすることができている。	・ 書く能力の個人差がある。一文を長く書く、漢字を適切に使えないなどの傾向が見られる。 ・ 目的に合わせて取材したり、適切な例を挙げて説明したりすることには、まだ不慣れさが見られる。	・ 単元、時間ごとに、めあてを明確にする。 ・ 学習者用端末の黒板機能を活用し、本文の叙述を基に、自分の考えをまとめたり、グループで交流して考えたりできるようにする。 ・ 学習支援アプリを活用し、書いたものを読み返し、推敲する習慣を定着させる。 ・ 読み手として自分の書いたものが分かりやすいか、説得力があるかを評価させる。	・ 授業後の感想や書くこと単元の提出作品をもとに文章力の評価を行う。 ・ ワークテストで80%以上を達成したかで評価する。 ・ CRT テストの変容で評価する。
社会	・ 提示された課題について、自分で調べて要点をまとめることができている。	・ 用語、人物名等の定着に個人差が見られる。 ・ 複数の資料を関連付けて考えることにやや課題が見られる。	・ わからない言葉を調べながら学習を進める習慣をつける。 ・ 複数の資料を提示して、総合的に分かったことをまとめたり、自分の目的に合わせて資料を選んだりする場面を意識的に設定する。	・ ノートへの記述やスライド作品等をもとに資料の活用についての評価を行う。 ・ ワークテストで80%以上を達成したかで評価する。
算数	・ 基礎的な計算の力は概ね身に付いているといえる。 ・ 文章題の数量関係を、数直線を使って表すことに慣れてきた児童が多い。	・ 知識・技能に比べて、思考に関する問題が苦手な傾向がある。 ・ 割合、倍、比等の単元では、もとなる数と比べられる数の関係を正しく読み取れない児童が多く見られる。	・ 文章題に多く取り組めるよう、意識してモジュールや家庭学習の課題を設定する。 ・ 問題文の言葉と数直線のつながりを明確にしながら、問題を正しくとらえる力を伸ばしていく。 ・ 問題を解き進める手順を大切に、順序立てて考えたり説明したりする意識をもたせる。	・ ワークテスト、東京ベーシックドリル診断テストで、80%以上を達成したかで評価する。 ・ 自分の考えの記述をもとに評価する。
理科	・ どの単元も問題解決学習の流れで授業を行っている。特に考察では、結果から分かったことが何なのか。何が妥当な考えなのかを話し合い、結論を導くことを大切にしている。	・ 科学的なものの見方や考え方を働かせることができていない。 ・ 理科の用語や試薬、器具の使い方など知識を定着させる必要がある。	・ 理科の「見方・考え方」を働かせることができるような授業を構成する。また、その際には、視聴覚機器を効果的に扱い、思考が深まるようにする。 ・ 日常生活や今までの学習等とつなげるようにして、知識を活用しやすくする。 ・ 学習者用端末のスライド機能を活用してフラッシュカードのように授業の最初に用語や試薬、器具などの知識が定着するようにする。	・ ノート評価の指標を定め、2学期が終わるまでにノートの質が高まったことを評価する。 ・ 普段の小テストで、80%以上とれているかで評価する。
音楽	・ リコーダー・ミニキーボードを中心に、演奏に取り組んでいる。 ・ 基礎的な発声法を取り入れ、合唱に取り組んでいる。 ・ グループでの活動は意欲的に取り組んでいる。	・ グループ活動のコミュニケーションに課題がある。	・ ワークシートを用いたグループでの話し合い活動によって、表現を工夫させる。 ・ 様々な楽器に触れ、基本的な奏法を学びながら、自主的な練習を重ねて取り組ませ、達成感をもたせる。 ・ インターネットを使った調べ学習で、各国の文化や歴史などについての理解を深め、主体的に学習できるようにする。	・ ワークシート等の提出物で評価する。 ・ 協働的な活動の様子と振り返りシートで評価する。

図画工作	• これまでの経験や技能を総合的に生かして、主体的に製作に取り組んでいる。 • お互いの作品のよさやおもしろさを味わいながら鑑賞している。	• 自分のイメージや表したいことを基にして、どのように表すのか考えて製作することに課題がある。 • 最後まで作品の完成度を高めることに課題がある。	• 様々な材料・用具を用意して、児童が試行錯誤することでどのように表すのか考えさせる。 • 学習支援ソフトを活用して製作過程ごとの振り返りを提出させることで、完成までの見通しや課題を明らかにしていく。	• 振り返りシートを使って、製作過程ごとの自己評価や作品の変化を評価する。
体育	• 体育の学習に意欲的な児童が多い。 • チームで取り組む学習では、チームへの所属意識、スポーツに対する見方・考え方が身に付いている。	• 勝敗に対しての正しい態度を身に付けられるようにする。 • 器械運動に関する技能が低い児童には個別に指導していく必要がある。	• 勝敗にかかわる場面では、教師が審判をするのではなく、両チームが納得いく形で解決できるように支援する。 • 学習カードやチームカード、作戦ボードなどの課題解決のための教材を充実させる。 • 体育館体育ではマット運動や跳び箱等の指導の際、学習者用端末を活用し、見本の演技等を各自が必要に応じて見られるようにする。	• 学習カードのふり返りの記述をもとに、主体的に取り組む態度や、運動に対する思考や表現する力を評価する。
家庭	• 学校で学習や実習した内容が定着し、家庭でも取り組む児童が増えた。 • 調理や裁縫など苦手意識をもたず、楽しみながら取り組むことができる児童が多い。	• 授業の導入では自分の家庭生活を振り返る発問を入れることで身近に感じさせる必要がある。 • 裁縫において基本的な技能に個人差がある。	• 実験や実習、調査や観察など、実践的、体験的な活動の時間を確保し、実感を伴って理解できるようにする。 • 家族の一員として自分の生活を振り返り、自分にできることは何かを考え、計画を立てさせる。 • 日常生活の中から問題を見出して課題を決定し、様々な解決方法を考え、実践させていく。 • 学習者用端末を活用し、各自が動画を拡大したりスロー再生したりして見られるようにする。	• 調理や製作の計画、振り返りの記述から、主体的に取り組む態度や思考について評価する。 • 家庭科の実習や作品をもとに、技能について評価する。
外国語	• 新しいスキットを配布すると、自力で読もうとする姿勢が見られる。 • 自分で読めて理解できる単語が確実に増えてきている。	• 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の内容に偏りがみられる。	• スキットの文型練習のみならず、自分にあてはめた内容で自由に会話する練習をし、自信をもたせる。 • 発音などデジタル教科書を活用して児童一人一人に確認させる。 • デジタル教科書を利用して「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」をバランスよく習得させる。	• 授業中の発言や参加意欲から評価する。 • ワークテストの結果で評価する。 • 発表 3 回、会話テスト 2 回（対 ALT 又は教師）を個々に評価する。
道徳	• 自分の意見を友達と交流することで、多様な意見を聞く場を設定することができている。 • 毎回振り返りを書くことで、自己の考えについてじっくりと書き記している。	• 現実で問題が起こった場合に、多様な考えを受け入れることができない児童が多い。	• 道徳の授業での言語活動を意識的に取り入れる。 • 全体での話し合いの時に「似ている」「少し違う」などを意識した活動を取り入れる。意見を板書する際に整理分類して板書できるようにする。 • 振り返りを活用して、自分の心の成長を実感できるようにする。	• 振り返りの記述から、「今まで」「今」「これから」の視点で書いているかを評価する。